

AIが発達した未来をよりよく生きるために

岐阜市立加納中学校 3年

西松 朋香

皆さんは飲食店に行った際、AIが搭載されたロボットが配膳をする姿を見たことはありますか。また、AIに質問をしたり、情報を得たりした経験はありますか。近年、私たちの生活の中で、AIが利用されるようになった場面が多くなったと感じます。

AI研究の第一人者で、Google社でAIの技術開発を担当されていた、レイ・カーツワイル氏は、「2045年に『シンギュラリティ』が起こる」と述べています。『シンギュラリティ』とは、AIが人間の知能を完全に超えてしまうことを指します。人間の知能をAIが完全に超えることで、人間に予測不可能な問題が起こり、私たちの生活に大きな影響を及ぼすのではと、今問題視されているのです。

AIが発達し、私たちの生活を大きく変化させてしまう未来がすぐそこまで来ています。そんな未来をよりよく生きるために、私たちはどのような力をつけて生きるべきなのでしょう。

皆さんはAIが悪用され、広まっているフェイクニュースをご存じですか。最近だと、アメリカのトランプ大統領が日本の岸田元首相を批判するようなフェイクニュースがネット上で広がり、80万回以上も再生される投稿もあるなど、国を越え、多くの人々の目に留まりました。私もこのニュースについてテレビで見たことがありますが、表情や声が本人と瓜二つで、AIの凄さを感じました。一方で、今後もAIの発達が進むのに伴い、フェイクニュースの数も比例して増加し、フェイクニュースで溢れた世界になってしまうのではないかと大きな不安と恐怖も感じました。なぜなら、フェイクニュースを制作し投稿した人のほとんどは、自分の投稿を見た人たちが「面白い」と思うだろうという軽い気持ちでフェイクニュースを作り出し、それが作られた情報だと誰も気づかないまま世界中に広まってしまう可能性が十分にあると気づいたからです。自分がいつも見ているニュースですら信用できなくなってしまうことに恐怖を感じます。誰でも簡単にAIにフェイクニュースを作らせることができるようになった今、情報を受け取る側に立つ一人一人が、その情報が本当に正しいのか見極められるという新たな力をつけることが必要とされているのです。

また、新しくつけるべき力だけでなく、既に私たちに身につけている力をより活かしていく必要性も高くなっています。皆さんは怒っている時、それをどのように相手に表現しますか。私の場合、小声で文句を言い相手に怒りを表しますが、一方で私の妹の場合、相手に声を荒らげて責めることで怒りを表します。私と私の妹のようにどれだけ身近な人としても、感情表現の仕方は異なり、多種多様ですが、現状AIが私たちの感情を全て読み取ることは不可能だとされています。なぜなら、AIは感情をもっていないからです。私たちは感情をもっているため、ある感情を自分と同じように表現する仲間のことを理解でき、自分とは違う表現をする仲間も、この人は自分とは違うと決めつけることなく、それを相手のらしさとして受け入れることができます。私たちのそんな相手の感情を汲み取る偉大な力は、AIが発達した未来でも生きてくるはずです。しかし、そんな力を「もっている」だけでは意味がなく、それを「行動に移す」までが大切だと思います。例えば、相手がいやな気持ちになったことがわかったならば、素直に謝ることや自分の過去の行動を改めることが大切です。

このように、AIが発達した未来をよりよく生きるためには、AIの発達によって今起きてしまっている問題に合わせて新しく必要とされる力をつけたり、既についている力をより日常生活の中に反映させていったりすることが重要だと思います。私は、これからの予測できない未来を大切な人たちと共に笑顔で生きられるよう、今の自分がどう生きるべきなのか見つめ直し、AIとの関わり方を考えていきたいと思っています。皆さんも、自分自身の生き方に合わせ、どのようにAIの発達と向き合えばよいか、どんな力をつけるとよいか、考えるべきではないでしょうか。